



～ 夢ひとすじに～

宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 28 年度 第 2 号
平成 28 年 5 月 2 日 (月) 発行
さいたま市立宮原中学校
メールアドレス

miyahara-j@saitama-city.ed.jp

ホームページアドレス

<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

「思春期！「好きと嫌い」が同居して！」

こばやし ひろ とし
校長 小林 広利

「自分に自信をもとう」講師はこう切り出した。「他人に誇れるものがあると人は強くなります。胸を張って前向きに生きることができます。私も、なんて嫌な性分だろうと自分に嫌気がさすことがたびたびありますが、性格も容姿も何もかも嫌だと思っても、ひとつだけでもいい、他人より優れているもの、自信のもてるものがあると、人は輝くことができます。要は、自分を好きになることだと思えます。そのためには、自分をよく知ることが肝要です。」ある研修会での話である。

今年度、宮原中学校の生徒の皆さんには《自信と誇りある自分自身の実現》を目指して行動してほしいと思います。具体的には、①さわやかなあいさつができる ②校歌を大切にし、心を込めてしっかりと歌える ③靴のかかとをしっかりとそろえられる ④身の回りをきれいに清掃できる ⑤時間の大切さを知り、時間を守る ⑥誰かがつらい時、共感的な言葉が言える、これら6つの行動目標を学校でも、家庭でも実践してください。これらを凡事一流に行うことができれば、徐々に自分に自信が湧いてきて、自信と誇りある自分自身の実現への第一歩となることと思います。凡事徹底という言葉があります。当たり前のことを当たり前に行えるということは立派なことです。さらに、皆さんには「凡事一流」という言葉をプレゼントしたいと思います。「凡事一流」とは、行うことの意義を自分で考え、工夫して行動し、そして継続することを指しています。誰もができそうなことだけれども、そのことをしっかりと行い、継続できる人は一流です。6つの行動目標を継続して実践していきましょう。

4月に入って、地域の方から学校に2本の電話がありました。道端で座り込んでいるご老人に本校の生徒が「大丈夫ですか」と声をかけている姿を見て、とてもすがすがしい気持ちでしたとのことでした。もう一本の電話は、踏切で転んで足を痛めた時に、本校の生徒が電車が来る前に声をかけてくれて助けてくれたという内容でした。どちらの行動も 誰かがつらい時、共感的な言葉が言えるという目標を行動に移してくれた実践で、電話をかけてくれた地域の方からは、生徒の皆さんによろしく伝えてほしいと感謝の言葉を述べていただきました。

また、先日、校舎内を歩いていると、数メートル先の廊下に紙くずが落ちているのが見えました。拾って捨てようと思った瞬間、通りかかった一人の生徒が、ごく自然に紙くずを拾い教室のゴミ箱に捨ててくれました。私が、「ありがとう」と声をかけると、声をかけられるとは思っていなかった様子で、ぺこりと頭を下げてくださいました。

このように、日常の何気ない出来事で自分を好きになれる場面は結構あるように思います。元気、おしとやか、やさしい、協力的、誠実など、皆さんはよい面をたくさんもっています。しかし、思春期の皆さんは、自分が嫌になるときもあるのではないのでしょうか。自分が嫌になるのは、実は自分をよく知ろうとする心の動きが働いているときであり、自分が嫌になることがあって当然の思いなのです。自分に対して「好きと嫌い」が同居する心があつてこそ、真の自分を見つめることができるのです。思春期とは、自分を知るために、今までの自分を一度否定していく、そんな精神の大きなうねりの時期のような気がします。自信と誇りある自分自身の実現を目指して、年度初めにもう一度自分を見つめ直し、素敵な自分を探しませんか！